

令和元年度 光プロジェクト「医学セミナー」(筑波大学との連携)

○ 実施日 令和元年10月5日(土) 13:00~15:00

○ 実施場所 為櫻学習館1F多目的ホール ○ 参加生徒 20名(1年11名・2年9名)

今年度も、「高校生のための医学セミナー(医師の学校訪問)」「医学セミナー」が実施されました。この事業は、茨城県教育委員会と筑波大学との連携により医学を志す高校生を支援しようとの目的で実施されているものであり、本校からは20名の生徒が参加しました。

講師として来校されたのは、田中 磨衣 先生(筑波大学附属病院 小児科)。そしてサポートとして筑波大学医学群医学類所属の大学生3名(医学4年 柴崎 史行さん、中山 碩人さん、医学3年 福元 崇人 さん)にもおこしいただきました。柴崎さんと福元さんは本校OBであり、中山さんは東京都出身(名門本郷高校のOB)の、都会的でアクティブな方です。

まずは田中磨衣先生による「医師という仕事」に関する講話から会がスタートしました。医師の様々な職種、小児科医という仕事、チーム医療、そして女性の職場としての「病院」について、柔らかな口調でわかりやすく説明していただいたことで、聴き手の理解とイメージが大いに広がった筈です。

その後の質疑応答でも、活発な質問が寄せられていました。



休憩を挟んで、3名の医学類生と生徒によるグループ・ディスカッションに移りました。

最初は静かに始まったやり取りは、次第に各グループごとに熱を帯び始め、終了の時刻が過ぎてもなかなか終わらないほど盛り上がっていました。医学生の中には自前の教科書や専門書をご持参くださった方もおられるなど、会に臨む気合いの程を窺い知ることができました。





終了後の控え室にも次から次へと生徒たちが押し寄せて田中先生と医学生を質問攻めにしたため、先生方が辞去されたのは何とセミナー終了後2時間後のことでした（申し訳ありませんでした）。しかし、先生方は嫌な顔一つせず熱心に対応してくださり、「こんな風に好奇心と向上心を持っているということは素晴らしいことですよ」と仰ってくださいました。

生徒たちにとってまたとない有意義な機会を与えていただいたことを心から感謝申しあげるとともに、田中先生と医学生諸君の今後の活躍を心より祈念いたします。

改めて、本当にありがとうございました。

⇒ 生徒のアンケートより

設問1 あなたがこの事業に参加した「目的」は何ですか。

- 医学部に興味があったから。医者という仕事以外に、医療の世界にはどんな職業があり、関係しているのかが知りたかったから。技師などの医者以外の職業の名前は聞いたことはあるけれど、それぞれどのような仕事なのかが知りたかったから。
- 医学の道に進んだ方が、どのようにして進路を決めたのかが知りたかった。
- 自分の進路が医療系になるかもしれないから。
- 医学について考えるため。大学生について知るため。
- 以前から看護師という職業に興味があり、また子供が好きで小児科についても知りたかったから。
- 自分の夢が見つけれられるかもしれないと思い参加しました。
- 医学系の職業やその仕事内容など、医学についての知識を増やし、大学の医学部や医学の道に進んだ際に、どのようなことに取り組むのかを知るため。また、医学部受験に対する意識を高めるため。
- 進路について迷っていて、それを決定する上で役に立ったらいいなと思ったので参加しました。
- 興味があったからです。医者という職業についてです。
- 医学の道に進みたいと思ったので、どのようなことをするのか知りたかったから。

- 医学系の大学に進学したいと考えているため、医学について知りたいと思ったから。
- 看護の道に進みたくて、その中でも助産師や産科に興味があります。子どもが好きで看護師を目指し始めたので、講話をしてくださる先生が小児科の先生だと知り参加してみようと思いました。
- 実際に医療の現場に携わっている方の考えや話を聞きたかったから。医学部生の生活などを知りたかったから。

設問2 実際に参加してみて、特に印象に残ったことは何でしたか。

- 1人の患者さんに医者や看護師だけでなく、他にもたくさんの技師の方や、療法士、栄養士など、さまざまな職種の医療関係の人が関わっていたこと。特に、ソーシャルワーカーという退院後のことも考えてアドバイスなどをくれる人も関わっているとわかった。看護師も、ただ看護師というわけではなく、さまざまな種類があること。
- 現役で合格する人は医学部ではあまり多くないということ。
- ディスカッションで学生さんが、医療系の大学に行ったらそれ以外の仕事にはつきにくいからきちんと考えて選んだほうがいいと仰っていたこと。
- 大学生とのディスカッション。小児科の先生が、実際に働いていて感じていることなど。
- グループ学習での医学生のお話。相当勉強されていること。夢をもって輝いていること。
- 医療に関わる仕事には、まだ私が知らないものがたくさんあった。看護師以外の医療に関わる仕事についても知りたくなった。
- 筑波大医学類生のハキハキとした話し方です。私の担当は福本さんという方でしたが、やはり学のある人の話はとても面白かったです。医学部受験に向けてたくさん勉強したそうですが、現役合格とはならなかったと聞いて、医学部受験の難しさを改めて感じました。大学では、初めは身体の正常について学び、その後身体の異常について学ぶということもとても興味深かったです。大学の教科書を見せて頂きましたが、病名がズラズラと書いてあり、すごく面白かったです。教科書はとても分厚く、値段も高く、大学に入学してから大変なんだと感じました。
- 医療系にはたくさんの人がいろんな面で関わっていることを知り、医師や看護師だけでなく研究などの立場から医療に携わることもできるということが印象に残っている。
- とても努力した人でないと医者にはなれないということです。
- 実際に医療の現場で働いている方の声を聞けたこと。医学生は毎日たいへん。
- 医療だけでも様々な仕事があり、沢山の 방법으로人の助けになると感じた。
- 医療の現場ではチーム医療が大切なんだと感じました。それぞれの分野がかけ合さっていい医療を提供できるんだと思いました。
- チーム医療が重要になってきていること。看護師には専門看護師という職種があること。
- チーム医療の大切さ。医学生のコミュニケーション力の高さ。

設問3 この事業に参加するまで知らなかったこと、初めて知ったことは何でしたか。

- 患者さんが入院した時に、医者や看護師、薬剤師だけでなく、栄養士やソーシャルワーカーなど、治療以外の仕事をする人も関わっていること。
- 大学に入ってから6年間全ての種類の勉強をするため、詳しく医療系のどこに入るといったことは決めなくてもいいということ。
- 筑波大学病院の先生のお話を聞いたり、現役大学生の方とディスカッションをして、医学部でどんなことをするのがよく分かった。
- 物の考え方が奥深いと思った。
- 臨床心理士保育士という職業。小児科でも外科でないと手術はしない。
- 医学系の職業には、医師や看護師、薬剤師だけでなく、理学療法士や臨床検査技師、言語聴覚士、ソーシャルワーカーなど、様々な職業があるということ。また、1人の患者さんにこんなに多くの職業の方々が関わっているということ。工場や会社に勤務し、労働者の健康を管理したり、健康相談に乗ったりする産業医や、それぞれの診療分野において十分な知識と経験をもち、論文を書くことでなれる専門医など、様々な医師の種類があるということ。女性医師は土日の当直は免除されるなど、サポートが得られるようになっているということ。
- 大学受験が終わってからも大変だったことです。医学部は、最初の二年間はいろいろな分野を学ぶということ。
- 看護師に専門があるのを初めて知りました。色々な種類の看護師さんがいるんだなと思いました。
- チーム医療の中身。医学生にも趣味の時間や遊ぶ時間が少しでもあるということ。

設問4 この事業への参加を通して、今後あなたが実践してみたいと思うことは何ですか。

- 医者や看護師以外の職業(技師や、療法士の種類)を細かく調べて、各仕事についての知識を増やす。勉強では苦手な問題の克服や基礎固めなど、学生の方に教えていただいた勉強法。
- 計画。目標をもつ。小さな目標の達成を行う。
- 英語は看護師などの職業にも必要だと仰っていたので、英語の勉強は引き続きやっていきたい。
- 筑波大医学類の学生さんと話をしました。たくさん勉強したが現役合格とはならなかったと聞いて、1年生の今からコツコツ勉強すべきだと思いました。特に1～2年の時は英単語の語彙や数学の1年2年分野が大切だと聞き、やはり基礎基本が最も重要だと分かりました。また、計画を立てて地道に勉強していくと良いとアドバイスを頂いたので、そのように一生懸命勉強に取り組みたいです。
- 勉強時間のとり方など医大生のものを参考にしてよりよい学習が家でできるようにしたい。
- 勉強をより一層頑張りたい。医学生をしていた勉強法を試みたい。
- 自分の進みたい分野だけでなく、他の分野も調べてみる。
- 英語の勉強方法について質問したときに、単語が最終的に大事になってくると言われたので単語を頑張りたいです。また、自分が今までしてきたことを面接で話せるようにしたいです。
- 医学生が実際に行っていた勉強法や医学部生に教わったことを実践してみたい。

設問5 今回の事業について、感じたことを自由に記述してください。

- 医者の仕事や種類など、知らなかったこと、知識が曖昧だったことを知ることができてよかったです。また、実際に学生の方に勉強法などを伺うことができて、これからの生活に役立てられそうなので、とてもいい経験だったと思います。
- 学生さんとのディスカッションで聞きたいことが聞けてよかった。医師の仕事についてもよくわかったし、前よりも興味が湧いた。
- 医療関係の仕事など、具体的なお話が聞けてよかった。実際に働いている方や、大学に通っている方のお話を伺ったので、進学後のイメージがしやすかった。
- 自分の知りたいことや知らなかったことをたくさん知ることができて良かった！
- 他の学部についても聞いてみたい。目標となる大学、やりたいことを見つけたい。考えたい。
- なんとなくでしか知らなかった看護師という仕事について詳しく知ることができた。新しいこともたくさん知って、将来の夢を考える視野が広がった。
- 田中先生の講話も、福元さんとのディスカッションもとても有意義な時間となりました。私の知らなかったことや、大学での生活、医学部受験における大切なことなど、このセミナーならではのことが出来ました。このセミナーで学んだことを、今後の生活・勉強に活かしていきたいです。
- 今回の医学セミナーに参加して医学の道へ進みたいという気持ちが強くなった。医療にたずさわりたいたくさんの人を助けたいという気持ちになった。
- また参加したいです。
- 医学生はとても優しく面白い人が多いなと思いました。
- 医学生にたくさんのことを聞けて、医学系の進学についての知識が深まった。
- 自分が好きな分野だったので楽しかったです。改めて、色々なことを知ることが出来ました。チーム医療が大事になってくる中で、看護師は特に医師との連携が大事になると思うので、その点で医師の仕事について詳しく知ることができて良かったと思います。
- 今まで知らなかったチーム医療の現状や、チーム医療の現場に何が必要か、小児科の現場で大切なことは何かなどについて知ることができ、本当に良かった。また、医学生の高校時代の勉強法や苦手科目の勉強法などを知ることができ、これからそれを参考にして勉強していこうと思いました。

設問6 この事業に参加して、医師（小児科医）の仕事や医学生としての学びについての理解は深まりましたか。

- | | |
|--------------|-----|
| ○ 大いに深まった | 13名 |
| ○ 深まった | 6名 |
| ○ どちらとも言えない | 0名 |
| ○ あまり深まらなかった | 0名 |
| ○ 深まらなかった | 0名 |

設問7 今回の事業は、あなたにとって有意義でしたか。

- | | |
|--------------|-----|
| ○ 大いに有意義だった | 16名 |
| ○ 有意義だった | 3名 |
| ○ どちらとも言えない | 0名 |
| ○ あまり意義がなかった | 0名 |
| ○ 意義を見出せなかった | 0名 |

